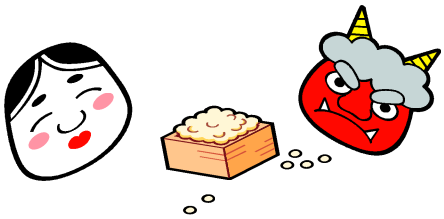
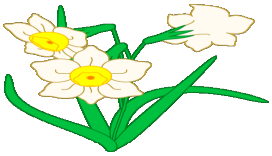
佐野市立界小学校　校長室だより第11号

令和3年2月1日



界の子



ついこの前、令和3年の幕が開いたかと思ったら、あっという間に1か月が過ぎ、2月3日には立春を迎えます。暦の上では春となります。二十四節気では、これから雨水、啓蟄、春分と移りゆき正に春本番を迎えます。

学校では卒業式、修了式までの7週間は、学年のまとめの時期になると同時に、次の学年に進級するための大切な準備の時期となります。コロナ禍だからこそ一日一日を大切にし、さらなる飛躍への準備ができるよう全力で支援していきます。

【目標に向かって頑張る姿～なわとび検定～】

12月に入ると、校庭からポンポンポンとリズムに合わせた心地よい音が聞こえてきます。それは、ジャンピングボードでなわとびを練習する音です。休み時間には、我先にジャンピングボードの前に並び、前跳び、後ろ跳び、あや跳び、交差跳び、二重跳び、はやぶさ跳びなど毎日挑戦している姿が見られます。

出来る出来ないがはっきりしているスポーツであることが、「出来た」喜びにつながり、やる気を起こしています。1月中旬からなわとび検定が行われています。真剣な眼差しで頑張る姿に今年も大きな感動をもらっています。

他人を思いやる心をもつ子どもを目指して

本校では、令和元年度から２年間、道徳科を要として学校の教育活動全体を通した道徳教育の推進を図ってまいりました。

授業の実践においては、道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ自他との対話をもとに考えを深める授業スタイルを工夫しました。また、地域教材や地域人材の活用、校内掲示物の工夫、心キラッとノートの活用を通して道徳的実践につなげる工夫を行いました。

保護者の皆様にも、道徳意識調査のアンケートにご協力いただいたり、道徳科の授業参観後に貴重なご意見をいただいたり、大変お世話になりました。

２年間の研究で大きく変わったことは、道徳科の授業に対する取組が大変意欲的になってきたことです。また、道徳科で学んだことを今後の生活で実践しようとする態度が見られるようになってきたことです。

一例ですが･･･

休み時間、私が校庭の落ち葉を掃いているとどこからともなく近寄ってきた５年生が「私も手伝います。」と声を掛けてきました。翌日はその姿を見た他の５年生が「ぼくも手伝っていいですか。」と進んで手伝いをしてくれました。

また別の日、朝昇降口が開くまでのわずかな時間、３年生が一枚一枚落ち葉を拾ってくれました。日に日にその輪が広がり、１年生も落ち葉を集めてくれました。

学校のために、自分に出来ることを進んで実践できる子どもたちが増えてきました。本当にうれしいことです。すばらしいことです。

コロナ禍で多くの活動が制限されていますが、その中でも子どもたちの心は着実に育っています。子どもたちの純粋な心キラッとをこれからも大切に育てていきたいと思います。